

HORIBA

Explore the future

第 **76** 期

報 告 書

2013年1月1日~2013年12月31日



株式会社 堀場製作所



PART 1 2013年度(1月~12月)連結業績について

売上高、利益ともに増収増益

2013年度におけるHORIBAの業績は、売上高が1,381億3,600万円(前期比17.5%増)、営業利益が137億3,300万円(同16.9%増)、経常利益が130億5,600万円(同15.0%増)、当期純利益が89億9,900万円(同21.7%増)となりました。

分析・計測機器業界では、半導体関連は、半導体メーカーの設備投資の回復により年前半から好調が続きました。また、自動車関連も、国内外の自動車メーカーによる設備投資や研究開発投資が前年度に続き堅調に推移しました。一方、科学や環境関連については、民間企業による設備投資や研究開発投資が慎重で、需

要は弱い状態が続いています。

このような状況のもと、HORIBAでは、経営戦略全般を起案し推進する経営戦略本部による事業改革を推し進め、市場のニーズに合った製品投入を加速させました。事業部門別では、特に半導体システム機器部門において、主力製品であるマスフローコントローラーの販売が大幅に増加しました。円安の環境下、販売拡大に努力した結果、売上高、利益ともに増収増益となりました。このうち、当期純利益については、過去最高の成績をあげることができました。

ごあいさつ

オーナー(株主)の皆様には、平素より格別のご支援を賜り誠にありがたく厚くお礼申し上げます。

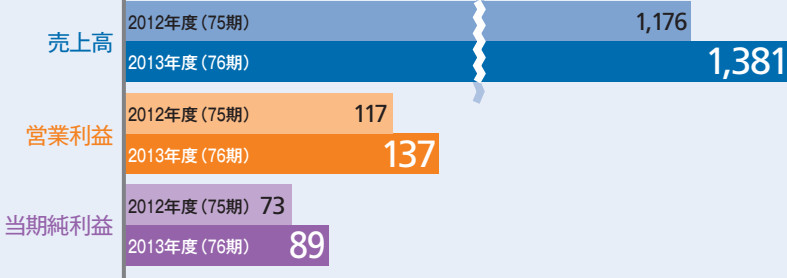
ここに事業の概況と今後の諸施策につきましてご報告いたします。

代表取締役会長兼社長

堀 均 厚

連結業績の概要

(単位:億円)



HORIBAでは「中長期的な視点で投資いただきたい」という想いから、従来の単なる株式の所有者である「株主」という言葉よりも、「会社の所有者」すなわち「オーナー」という表現がふさわしいと考え、表現を統一しています。

滋賀県湖西地域最大の開発・生産拠点の建設に着工

2015年度を目標年度とする中長期経営計画では、連結売上高1,500億円、営業利益率13%以上、ROE(自己資本当期純利益率)11%以上という目標を掲げ、計画達成へ向けて様々な施策を推し進めています。

国内における拠点整備として、滋賀県大津市に保有するびわこ工場用地に、自動車計測と環境・プロセスシステム機器部門におけるガス計測分野の新しい開発・生産拠点「HORIBA BIWAKO E-HARBOR(ホリバ ビワコ イーハーバー)」の建設を決定しました。総投資額は100億円を見込んでおり、2015年秋の完成をめざ

しています。

これを機に、営業、開発、設計、生産、サービスの一体改革を進めるとともに、協力が持つ技術・ノウハウ・人財を本社・びわこ両拠点で共有することで、グローバル市場での競争力を一段と高めます。さらに、HORIBAの主力製品である自動車排ガス測定装置や煙道排ガス分析装置などの開発・設計・生産機能を集約することにより、品質向上とともに生産能力を従来の2倍、納期を3分の1とすることをめざします。

また、この移管プロジェクトを「技術の遷宮」と位置づけ、次世代を担う若い技

術者の手により、京都で育てたコア技術を新拠点へ移管することを通じ、蓄積された知識やノウハウなどの技術の継承と生産の改革につなげていきます。

今後とも、経営方針である「HORIBA Group is One Company.(HORIBAグループは一つの会社)」をベースに、投資効率を改善し、利益の最大化と継続的な企業価値創造に全力を傾注する所存でございますので、オーナー(株主)の皆様におかれましては、倍旧のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



HORIBA BIWAKO E-HARBOR(ホリバ ビワコ イーハーバー)の完成イメージ





次世代技術開発や新事業の発展をめざして

最先端の分析・計測技術をグローバルに展開させるために、研究開発や事業買収を加速

NEWS

「堀場エステック京都福知山テクノロジーセンター」が完成

グループ会社の堀場エステックが建設を進めていた初の研究専用施設「堀場エステック京都福知山テクノロジーセンター」が2013年12月に竣工し、本格稼働しました。同センターは、京都北部中核工業団地内の約6,200㎡の敷地に、防爆構造の実験棟（延床面積154㎡）と事

務・実験棟（延床面積1,133㎡）からなり、半導体製造装置用のガス・液体制御機器（マスフローコントローラー）をはじめ、次世代ハイテク材料に関連する制御機器の開発などに取り組む研究専用施設です。現在、最先端の半導体製造プロセスに

おいては、基板材料のシリコンウエハの特性改良が求められており、ハイテク材料を駆使した研究が行われています。永年培ってきた流体計測・制御技術を用い、より信頼性の高い測定機器の開発に取り組んでいます。



堀場エステック京都福知山テクノロジーセンター



竣工式の様子

蛍光分光分析事業を買収

HORIBAは、米国Photon Technology International(以下PTI)社と、蛍光分光分析事業の買収についての契約を締結しました。蛍光分光分析とは、電磁波を物質に当てると固有の光が反射や吸収される現象を利用して物質の検出や量の測定を行う技術で、生物医学分野などで解析需要が高まっています。今後は、PTI社の独自技術とHORIBAの蛍光分光技術を融合し、iPS細胞*などに

代表される再生医療の実現に向けた研究や次世代医薬品、農業・食品分野で事業を拡大します。

HORIBAは、蛍光分光分析分野では既に世界トップシェアの15%(2012年発行のSDI社レポートによる)を確保しており、今回の買収を通じてさらなるシェアアップをめざします。

※体細胞に特定の遺伝子などを入れ、神経や筋肉など体の様々な組織になる能力を持たせた細胞。



HORIBAの一員として加わったPTI社メンバー

中国・清華大学と環境監視システムを共同研究

HORIBAは、清華大学環境学院(中国・北京市)と「中国の環境監視システムの構築」を目的とした共同研究を開始しました。大気中の微小粒子状物質の計測や工場排水のモニタリングなど、現地ニーズに適した環境監視システムの共同開発を進めます。

HORIBAは2001年に「堀場製作所分析センター」を中国に設立して以来、製品の分析・計測サービスの提供や技術交流会を続け、2012年には分析・計測に関

する公的研究機関「北京市理化分析測試中心」と共同研究開発センターを設立するなど、中国において、10年以上にわたり学術研究分野で信頼関係を構築してきました。今後は共同研究を通じて、日米欧において、環境規制に対応し、積み重ねてきたHORIBAの技術やノウハウを提供することで、環境監視システムの実用化に向けた施策を提案していきます。



調印式の様子

製品紹介

環境・プロセスシステム機器部門

自動全窒素・全りん測定装置 「TPNA-500」



排水などに含まれる栄養塩類の同時測定が可能な自動全窒素・全りん測定装置「TPNA-500」を発売しました。

使用期限が従来の2倍の試薬を開発するとともに、業界で初めて調合済みの専用試薬セットを定期配送することで、試薬の管理コストの低減に成功しました。さらに、長期にわたる自動測定を実現し、稼働費用を約3割削減しました。

HORIBAは、試薬や紫外線を用いて窒素・りんをイオン化し測定する「紫外線酸化分解法」を他社に先駆けて開発。長寿命、低消費電力、少量試薬といった特徴が受け入れられ、この分野で国内シェア4割(当社調べ)を確保しています。それらの特徴をさらに高めた「TPNA-500」で、今後は国内シェア6割をめざします。

医用システム機器部門

グルコース分析装置 「アントセンス デュオ」



業界初の無線通信機能を備えたグルコース分析装置「アントセンス デュオ」を発売しました。

病院で使われる血糖値測定器の一種で、医療機器への影響が少ない短距離無線通信技術「Bluetooth®」を用いて血糖値を電子カルテに自動記録、医療関係者間の情報共有を進めます。

本体画面には、従来比1.4倍の3.5インチのカラー液晶を採用し、使いやすさや視認性を向上。また、“ミスなく迷わずに測りたい”というお客様の声を受けて、血液を乗せるポイントを点灯させたり、操作方法を画面でイラスト解説するなど、使う立場に立った工夫を凝らしています。

半導体システム機器部門

ガス流量制御機器 「CRITERION(クライテリオン)D500」



グループ会社の堀場エステックは、マスフローコントローラーの新型「CRITERION(クライテリオン)D500」を発売しました。マスフローコントローラーは、半導体・太陽電池・LED(発光ダイオード)などの製造工程で使用されるガス・液体の流量制御装置で世界シェア約5割(当社調べ)を獲得しています。クライテリオンD500では、個々のガス特性に合った流量の制御により、世界最高の流量精度・応答速度(既存製品比2割向上)を達成しました。ガスの供給圧力を常に監視する圧力センサーを搭載することで、小型化を実現。ガスの種類や流量範囲の自在な設定・変更もできるようになりました。精緻なコントロールと高い信頼性により、半導体などの製造工程での生産性向上に貢献していきます。

半導体システム機器部門

プラズマ発光制御装置 「RU-1000」



スマートフォンやタブレットパソコンなどのタッチパネル向け「高機能フィルム」の量産製造装置へ搭載されるプラズマ発光制御装置「RU-1000」を発売しました。RU-1000は、プラズマ発光の変化を自動認識してガスのコントロールを行い、高機能フィルムの製造プロセスでの安定性を高める装置です。堀場エステックのガス流量制御技術と、当社の光分析技術を組み合わせ、同種の装置としては初の国産化を実現しました。今後成長が見込めるタッチパネル生産分野へ事業展開を加速させます。

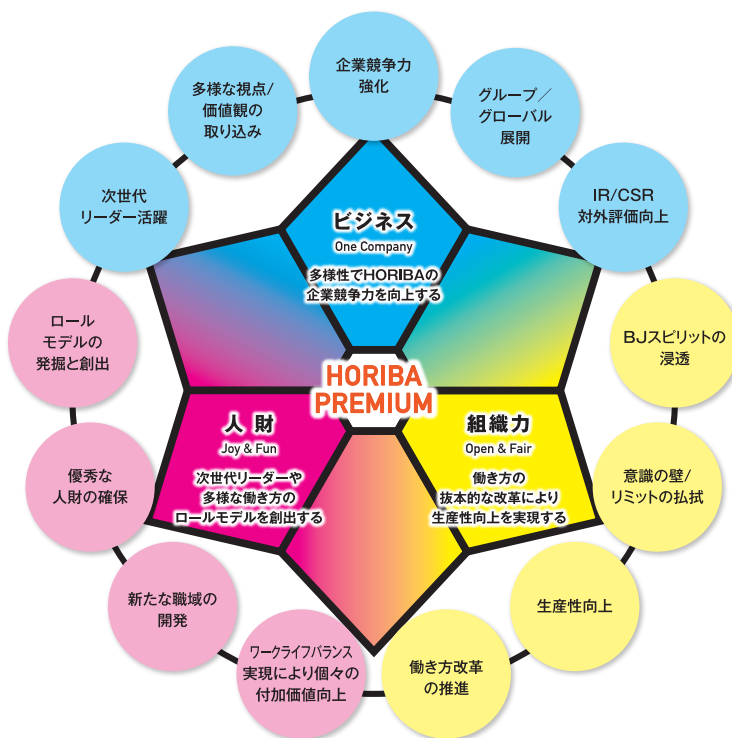
2014年1月、ステンドグラスプロジェクトをスタート

ステンドグラスは、色や形の異なる様々なガラスを組み合わせることで、美しい輝きを放つ、素晴らしい一つの絵となっています。2014年1月にスタートしたHORIBAステンドグラスプロジェクトは、多様な価値観を持つHORIBAグループ従業員一人ひとりが力を最大限発揮し、グローバルに活躍することで、強いHORIBAを実現することをミッションとしています。会社が光を当て、従業員一人ひとりが輝き、その美しさを社会が認めることが、HORIBAの価値創造であり、強さにつながります。

プロジェクトは、16名のメンバーが「広報、ロールモデル、ワークショップ、社外交流」の4つのワーキンググループに分かれて活動を進めます。2014年は、日本が欧米・アジア諸国に比べて遅れている「性別を越えた企業での輝き方」について、新しい意識・視点をHORIBAに取り入れるという課題に取り組みます。



プロジェクトリーダー
森口真希



ベストカンパニーに8年連続ランクイン

2013年9月に実施された「2014年働きがいのある会社」アンケート*の結果、HORIBAは参加企業209社のうち、従業員1,000人以上の部において第11位となり、ベストカンパニーにランクインしました。ベストカンパニーへの選出は、日本で本調査開始以来、8年連続となります。

※調査機関Great Place to Work® Instituteによって、世界45ヶ国以上、5,500社超に対して実施されている世界最大規模の従業員意識調査。調査内容及び結果の詳細は<http://www.hatarakigai.info>をご確認ください。



リオデジャネイロ五輪に向けた林勇気のチャレンジ



第23回全日本室内アーチェリー選手権大会で優勝

北京オリンピック女子アーチェリー日本代表として出場し、団体8位入賞を果たした林勇気(法務部)が、2016年のリオデジャネイロ・オリンピック出場を目標に、競技活動を行っています。

2013年は、アジアグランプリ女子団体戦 金メダル・女子個人戦 銀メダル、アーチェリーワールドカップ女子団体戦 銀メダルなどの成績を収め、2014年も第23回全日本室内アーチェリー選手権大会で優勝しました。競技において結果を出すことはもちろん、トップアスリートだけができる体験を社内に伝えることが、林の大切な役割です。今後の林の活躍にご注目ください。

売上高

1,381億3,600万円 

(前期比17.5%増)

(単位:億円)

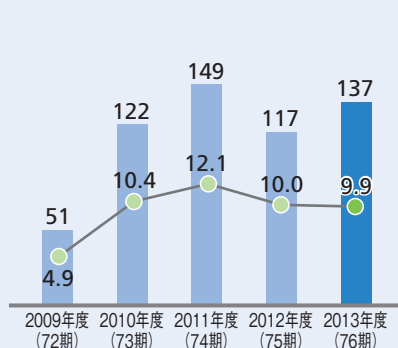


営業利益/営業利益率

137億3,300万円 

(前期比16.9%増)

■営業利益(単位:億円) ●営業利益率(単位:%)

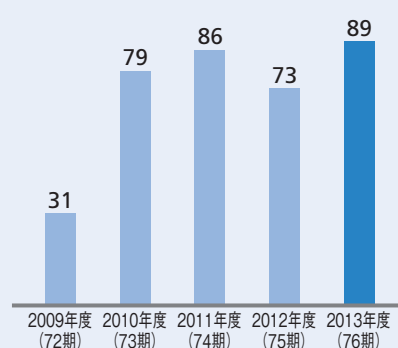


当期純利益

89億9,900万円 

(前期比21.7%増)

(単位:億円)

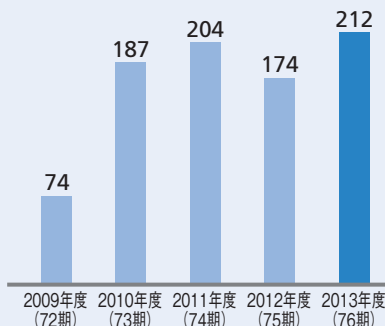


一株当たり純利益

212円 

(前期比21.7%増)

(単位:円)

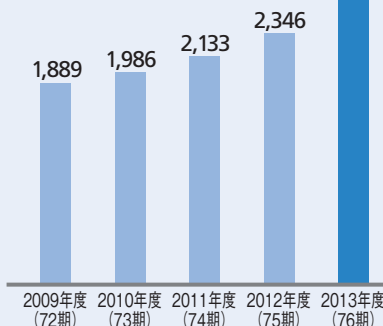


一株当たり純資産

2,699円 

(前期比15.1%増)

(単位:円)

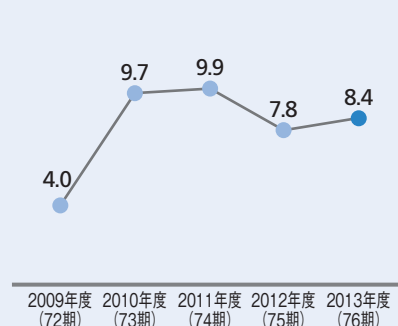


ROE(自己資本当期純利益率)

8.4% 

(前期比0.6ポイント増)

(単位:%)



■ 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:億円)

科 目	2009年度 (72期)	2010年度 (73期)	2011年度 (74期)	2012年度 (75期)	2013年度 (76期)
営業活動によるキャッシュ・フロー	137	119	69	133	150
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 41	△ 28	△ 61	△ 78	△ 81
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 47	△ 10	8	△ 33	23
現金及び現金同等物に係る換算差額	1	△ 12	△ 3	8	10
現金及び現金同等物の期末残高	275	344	357	388	492

» 配当金について

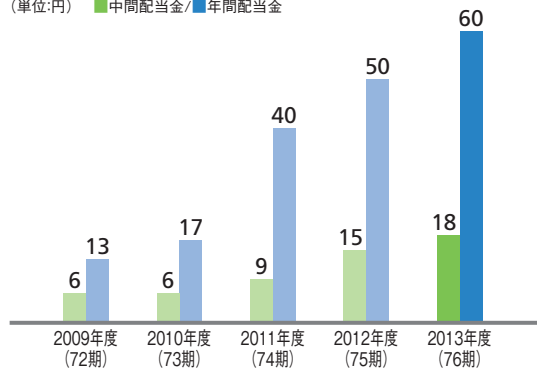
HORIBAでは、オーナーの皆様への利益配分について、基準配当性向主義を上場以来採用しています。2013年度(76期)からは、連結業績とより直接的に連動した株主還元を実施するため、個別純利益の30%を基準とした配当方針から、配当金と自社株買いを含めた株主総還元額を連結純利益の30%を目処とする方針に変更しました。利益成長を通じて企業価値向上を図るべく、内部留保資金を有効活用し成長分野に重点的に投資する一方、この方針のもと、オーナーの皆様に対して、連結業績に連動した利益還元を実施してまいります。

一株当たり年間配当金

60円 (前年同期比10円増) 

<過去最高>

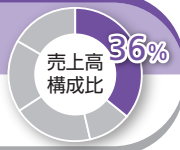
(単位:円) ■ 中間配当金/■ 年間配当金



※2012年度(75期)の年間配当金は、普通配当金40円に創立60周年記念配当金として10円を加えています。

自動車計測システム機器部門

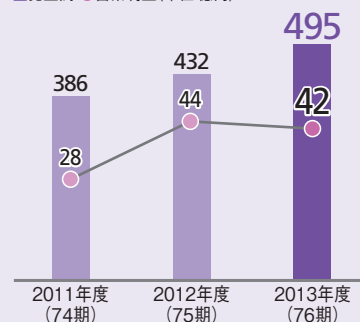
売上高 **495億2,400万円**



日本や欧米各国の自動車メーカーの設備投資や研究開発投資の回復に加え、円安により売上高が増加しました。ただし、自動車運行管理システム事業については、新製品開発費用の増加と受注の減少などにより収益が悪化しました。

この結果、売上高は前期比14.6%増の495億2,400万円となりましたが、営業利益は同2.8%減の42億8,700万円にとどまりました。

■売上高 ■営業利益 (単位:億円)



環境・プロセスシステム機器部門

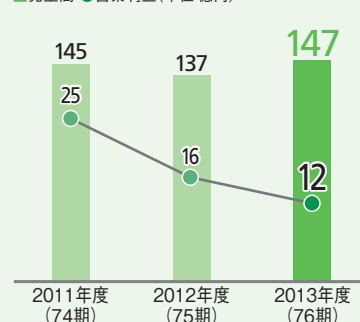
売上高 **147億1,100万円**



火力発電所向けの煙道排ガス分析装置の販売が堅調に推移したほか、2013年2月に買収したプロセス計測設備事業での販売増などを背景に、売上は全般に底堅く推移しましたが、東日本大震災後に急拡大した環境放射線測定器の販売が減少しました。

この結果、売上高は前期比7.3%増の147億1,100万円となりましたが、営業利益は同23.1%減の12億6,300万円となりました。

■売上高 ■営業利益 (単位:億円)



医用システム機器部門

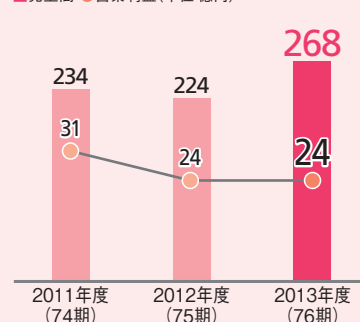
売上高 **268億3,200万円**



アジア各国で血球計数装置の販売が堅調に推移したことに加え、円安もあって、売上高が増加しました。一方、北米での販売ルート of 整備費用などにより、販売管理費が増加しました。

この結果、売上高は前期比19.8%増の268億3,200万円となり、営業利益は同2.0%減の24億2,900万円になりました。

■売上高 ■営業利益 (単位:億円)



半導体システム機器部門

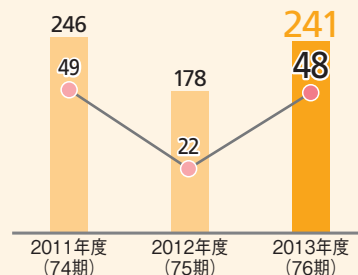
売上高 **241億5,300万円**



半導体メーカーの設備投資の増加を背景とした半導体製造装置メーカーの増産により、主力製品であるマスフローコントローラーの販売が大幅に増加しました。

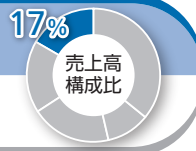
この結果、売上高は前期比35.2%増の241億5,300万円となり、営業利益は同111.7%増の48億1,500万円となりました。

■売上高 ■営業利益 (単位:億円)



科学システム機器部門

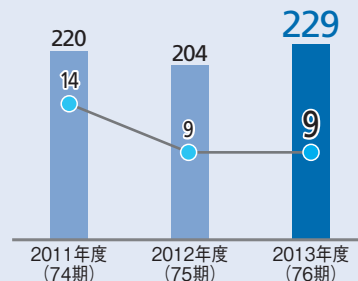
売上高 **229億1,300万円**



円安により円換算での売上高は増加したものの、欧州では政府予算削減の影響を受けて大学や国家研究機関向けの販売が減少しました。

この結果、売上高は前期比12.3%増の229億1,300万円となり、営業利益は同0.6%減の9億3,700万円になりました。

■売上高 ■営業利益 (単位:億円)



地域別売上高構成比



“はかる”技術での社会貢献をアピール

2013年11月と12月に、東京と名古屋にて個人投資家向けの会社説明会を実施しました。両会場合わせて144名の方にお集まりいただきました。

説明会では、HORIBAについて知らなかった方にも理解を深めていただけるよう、業績だけでなく社は「おもしろおかしく」や当社の関わる分析・計測事業について詳しく説明を行いました。また、製品展示スペースを設け、普段馴染みのない製品を手に取り見てもらうことにより、興味を持っていただくことができました。

今後も多くの方にHORIBAのファンになっていただくため、機関投資家や個人投資家の皆様とコミュニケーションを深めていきます。



会社説明会の様子

第76回定時株主総会決議結果等

2014年3月29日に開催した当社第76回定時株主総会において、次のとおり取締役6名、補欠監査役2名が選任されました。また、同日開催の当社取締役会において、各取締役の役位について次のとおり決定しました。

取締役

堀場 厚（代表取締役会長兼社長）
石田 耕三（代表取締役副会長）
齊藤 壽一（取締役副社長）
佐藤 文俊（常務取締役）
足立 正之（取締役）
杉田 正博（社外取締役）

補欠監査役

田辺 親男
橘川 温

なお、監査役3名については、今回変更はありません。

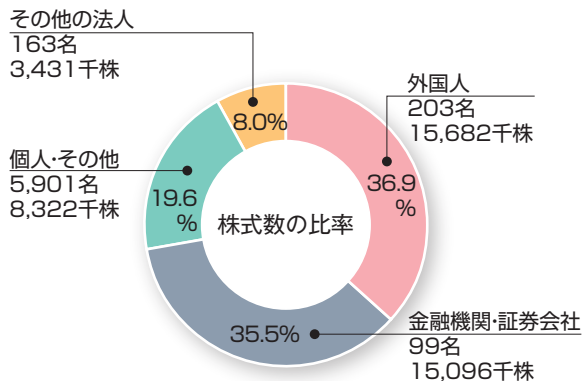
第76回定時株主総会の決議結果につきましては、書面による決議通知のご送付に代えて、当社ホームページ（<http://www.horiba.com/shareholders-meeting/>）に掲載しております。

発行可能株式総数 100,000,000株

発行済株式総数 42,532,752株

株主数 6,366名

● 株主構成



● 大株主 (上位10位)

株主名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口)	2,899	6.81
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	2,173	5.11
TAIYO FUND, L.P.	2,003	4.70
全国共済農業協同組合連合会	1,287	3.02
堀場 雅夫	1,200	2.82
818517ノムラルクスマルチカレンシジエイビストクリド	917	2.15
株式会社京都銀行	828	1.94
堀場 厚	809	1.90
堀場洛楽会投資部会	789	1.85
ジャパン リ フィデリティ	708	1.66

株価チャート (週末値)



オーナーメモ

事業年度	毎年1月1日から12月31日まで
定時株主総会	毎年3月下旬
基準日 定時株主総会 期末配当	毎年12月31日
中間配当	毎年6月30日
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
特別口座の 口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
郵便物送付先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 Tel:0120-782-031 (フリーダイヤル)
(電話照会先)	取次事務は、三井住友信託銀行株式会社の本店および全国各支店で 行っております。
単元株式数	100株
上場証券取引所	東京(第1部)
証券コード	6856
公告方法	電子公告とし、当社ホームページ(http://www.horiba.co.jp/)に掲載いたします。 ただし、電子公告によることができない事故その他のやむを得ない事由が 生じた場合は、日本経済新聞に掲載いたします。

環境フォト・コンテスト2014



【表紙写真】

堀場製作所賞
「地球のささやき」優秀賞 受賞作品

「もっと自由に!」 小川 隆司

●住所変更、単元未満株式の買取等のお申出先について

口座のある証券会社にお申出ください。なお、証券会社に口座がないため特別口座が開設された方は、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

●未払配当金の支払について

株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

●「配当金計算書」について

配当金支払いの際、送付している「配当金計算書」は、租税特別措置法の規定に基づく「支払通知書」を兼ねております。

確定申告を行う際は、その添付資料としてご使用いただくことができます。

なお、配当金領収証にて配当金をお受取りのオーナーの皆様につきましても、配当支払いの都度「配当金計算書」を同封させていただいております。

*確定申告をされるオーナーの皆様は、大切に保管ください。

株式会社 堀場製作所

京都市南区吉祥院宮の東町 2 番地

〒601-8510 Tel:(075) 313-8121 <http://www.horiba.co.jp/>

この印刷物は、環境に配慮し植物油インキを使用しています。

